



2019年11月 第17巻第11号

かく語りき—聖人の言葉

あなた方は神の子です。不滅の至福を分け持つ者、神聖で完璧な存在。あなた方は地上の神々です。それを罪びとは！ 人をそう呼ぶことが罪です。それは人間の本性への変わらぬ侮辱です。立ち上がれ、獅子たちよ。自分が羊であるなどという妄想を打破したまえ。あなた方は不死の魂であり、自由に祝福され永遠なる聖き霊です。

…スワミー・ヴィヴェーカーナンダ

祝福されるべきは、人としての誕生です。天国に住む者さえその誕生を望みます。なぜなら真の知識と純粋な愛は、人間によってのみ得られるものだからです。

…シュリー・クリシュナ

今月の目次

- かく語りき—聖人の言葉
- 2019年12月～2020年1月の予定

- 2019年9月の逗子例会 午後の講話
「受刑者への奉仕」
スワミー・ディッヴィヤーナンダ
- 2019のカーリー・プージャー
- 忘れられない物語
- 今月の思想

2019年12月、2020年1月の予定

- 2019年12月、2020年1月の生誕日
スワミー・プレーマーナンダ
12月5日（木）
ホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィー 12月18日（水）
スワミー・シヴァーナンダ
12月22日（日）
クリスマス・イブ 12月24日（火）
スワミー・サーラダーナンダ
1月1日（水）
スワミー・トゥリーヤナンダ
1月9日（木）
スワミー・ヴィヴェーカーナンダ
1月17日（金）
スワミー・ブラフマーナンダ
1月26日（日）
スワミー・トリグナティターナンダ
1月29日（水）

・2019年12月、2020年1月の協会の
行事

・2019年12月の協会の行事

12月8日(日) 14:00~16:00

逗子午後例会

場所：逗子協会本館

スワミー・メーダサーナンダジーによる『瞑想と霊性の生活Ⅰ』の解説

お問い合わせ：協会 046-873-0428

12月10日(火) 14:00~16:30

『ラーマクリシュナの福音』の勉強会

場所：逗子協会本館

お問い合わせ & お申込み：

benkyo.nvk@gmail.com

※前日までに上記の宛先にメールで
予約が必要です。

※協会ウェブサイトで事前に確認して
ください。

12月15日(日) 10:30~16:30

逗子例会

場所：逗子協会本館

お問い合わせ：協会 046-873-0428

12月24日(火) 19:00~21:00

クリスマス礼拝

場所：逗子協会本館

17:30 夕拝

19:00 礼拝、聖書朗読、キャロル、
瞑想

19:40 講話

20:40 夕食(プラサード)

ハタ・ヨーガ・クラス

第1, 2, 4土曜日(7, 14, 28日)

10:30~12:00

場所：本館

*体験レッスンもできます。

お問い合わせ：080-6702-2308

(荒井弘人)

メール：ochanomizuyoga@gmail.com

※専用ホームページをご覧ください。

<http://zushi-hatayoga.jimdo.com/>

2020年1月予定表

1月1日(水・祝)

カルパタル

11:30 スワミー・メーダサーナンダ
ジーより新年のごあいさつ、聖句詠唱、
聖典輪読など

14:00 協会より参拝に出発

メーダサーナンダジーと希望者が歩いて
鎌倉に行き、以下のルートで参拝し
ます。

逗子協会→鎌倉大仏→(この間は例年
バスに乘車)→カトリック雪ノ下教会
→鶴岡八幡宮

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

1月03日(金)

ホームレス・ナラ・ナーラーヤナへの
奉仕活動

新年の炊き出し

15:00~15:50 位に現地集合、夕方4時

から炊き出しを行います。
参加ご予約の方は下記までご連絡ください。

お問い合わせ：佐藤
urara5599@gmail.com

1月05日（日）14:00～16:30

逗子午後例会

場所：逗子協会本館

スワミー・メーダサーナンダジーによる『瞑想と霊性の生活 I』の解説

お問い合わせ：benkyo.nvk@gmail.com

1月11日（土）10:00～12:00

東京・インド大使館例会

講義：『バガヴァッド・ギーター』

場所：インド大使館

お問い合わせ：gitaembassy@gmail.com

※2020年前期分（1月～6月）の受付は定員に達したため終了しております。

※入館・受講するには、大使館発行のIDカード（2020年前期分）が必要です。

更新したIDカードの受け取りなど、詳細は、協会ウェブサイトのページ左側にあるメニューから「インド大使館ID」「IDカード受け取り方法」をご覧ください。

1月14日（火）14:00～16:30

『ラーマクリシュナの福音』の勉強会

場所：逗子協会本館

お問い合わせ & お申込み：
benkyo.nvk@gmail.com

※前日までに上記の宛先にメールで予約が必要です。

※協会ウェブサイトで事前に確認してください。

1月19日（日）10:30～16:30

ホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィー生誕祝賀会

場所：逗子本部別館

11:00 礼拝、アーラティ、花奉獻

12:30 昼食（プラサード）、休憩

14:45 輪読、講話、賛歌

16:30 お茶

※10:50分からライブストリーミングをいたします。

ハタ・ヨーガ・クラス

第1, 2, 4土曜日（4, 11, 25日）

10:30～12:00

場所：本館

*体験レッスンもできます。

お問い合わせ：080-6702-2308

（荒井弘人）

メール：ochanomizuyoga@gmail.com

※専用ホームページをご覧ください。

<http://zushi-hatayoga.jimdo.com/>

2019年9月逗子例会 午後の講話

特別ゲストスピーカー：スワミー・ディッヴィヤーナンダ

ラーマクリシュナ奉仕団

サラダピータ・ベルル セクレタリー



「受刑者への奉仕」

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ（スワミージー）の弟子のスワミー・ソーマナンダジー、元サンフランシスコ・センター長のスワミー・プラブダーナンダジー、元僧団長のスワミー・ランガナータナンダジーは、インド国内、主には南インドの刑務所で働いていました。西ベンガルでは私が地区当局より刑務所の受刑者と共に働くよう要請を受けました。

西ベンガル州マルダのシュリー・ラーマクリシュナ奉仕団アーシュラムの私たち僧侶は2003年2月3日からこの仕事に取り掛かりました。この仕事はマルダに始まり、東西南北ベンガルの50の刑務所に及びました。地方出身の受刑者たちは読み書きができないので、私たちはそこから始めることにしました。彼らは読み書きができないという

だけの理由で弁護士の事務員などに騙され、有罪判決を受け禁固刑となるからです。そこで私たちは読み書きのプログラムを開始しました。

実際には、受刑者がみな犯罪者というわけではありません。彼らは泥棒や武装強盗団のメンバーではないのです。開発が遅れ教育を受けられない農村部では、刑に服している約60%から70%の犯罪は無罪です。そのことは裁判所へ控訴すると有罪判決が取り消されることが示しています。10年も20年も服役した後に無罪放免となることもあります。

しかし、泥棒や武装暴力団メンバーも貧しい家庭で育ち、幼いころに親や教師などから適切な教育や指導を受ける機会がなく、やがて道に迷うのです。そこで私たちは、職業訓練のさまざまなプログラムを立ち上げました。これらのプログラムには、大工、仕立て、織り、二輪車、三輪車の修理などの訓練があるので、彼らが釈放される時、本当の意味での社会復帰ができると思います。私たちラーマクリシュナ奉仕団（RKM）は、ちょっとした事業や商店を始めるための何らかの準備も提供することがあります。人によっては事業開始に必要な原資を提供することさえあるのです。このことは彼らが以前の習慣から離れるためになされるものです。

私たちは多くの受刑者が聡明な少年少女なのに、服役のために学習をやめざるを得なかったことを観察してきました。だから私たちは刑務所内に建設的な環境を創り、素晴らしい先生方を差し向けました。私たちは彼らを大学や学校の遠隔教育プログラムに登録させました。彼らは定期的に勉強し、標準的には10種類から12種類のさまざまな試験を受けており、卒業および卒業後コース、社会学の学士号や修士号、さらにはMCAつまりコンピュータアプリケーションの認定資格さえも終了します。彼らが正常にこれらのコースを完了してから釈放されると、生計を立てることができます。このことは彼らにとって、そして社会にとって大きな助けになっています。

さらに、シュリー・ラーマクリシュナ、ホーリー・マザー、ヴィヴェーカーナンダの本や、プラーナ、聖書、コーラン、お釈迦様の教えなどを主とする2~3000種類の本を提供するりっぱな図書館を刑務所内に作りました。私たちは彼らの心と彼ら自身を良い思いへといざなうために、これらの本を提供してきました。私たちの友人、信者、教師の約200人が私たちに協力しています。私が今所属しているベルルのラーマクリシュナ奉仕団 サラダピタもベンガルのさまざまな地域で活動しています。

神聖な読み物を読むと、受刑者の一部はマントラ・ディクシャ(イニシエーション・マントラ)を授かることに興味を持つようになります。彼らはマントラ・ディクシャを授かるために、刑務所近くのラーマクリシュナ奉仕団を訪問する許可を政府と刑務所長官から得なければなりません。そして許可を得ると近くのRKMに警官によって護送迎えます。マントラを授かると、彼らの多くが監房で瞑想とジャパ(マントラの繰り返し)を実践するのを私は見てきました。刑務所での日々の労賃として稼いだお金で、RKMの月刊ベンガル語雑誌「ウドボーダン」を購読している者もいます。そうする中で、彼らは偉大なる師、ホーリー・マザー、スワームージーの生誕祭などの祝祭に出席するように招待されます。受刑者の多くは、これらの祝典に出席できるように仮釈放されることを祈ります。

また、ヨーガの練習を用意し、ヨーガ教師や音楽、演劇、その他の文化プログラムを教えるための専門家を派遣しています。授業は定期的に行われ、上演の機会も提供しています。収監中であっても一部の者は、刑務所内で学んだことを実演するために、公共のホールで上演する許可をもらうこともあります。RKM信者の内科医たちは刑務所を訪問し、健康啓発プログラムを実施し、さらには眼科医、歯科医、婦人科医と健康診断キャンプを組織して受刑

者を検査し、継続的な治療を提供します。当然ながらこれは、刑務所に提供される素晴らしい事業です。

この受刑者たちの子供の何人かは、私たちの教育機関の寄宿舎に宿泊し、私たちの学校で教育を受けています。現在、サラダピタ・キャンパス(教育複合施設)には10人から12人の少年が私たちと共におり、卒業、卒業後コース、教育学の学士号を目指しています。家族の主な稼ぎ手が収監されている間、もう片方の親と家にいる子どもたちは、いくらかの財政援助、教材、学校の制服など彼らの教育の継続のために必要なものなら何でももらえます。

通常スリは、刑務所に1~3ヶ月間収監されるか、罰金を払い保証人を立てたると釈放されます。あるスリの少年は、毎年2回から4回収監される常習犯でした。ある8月15日インド独立記念日に、私たちが自由について話し合っている折に、彼はやってきました。彼は私に「先生、お話ししたいのですが」と言ったので許可すると、彼は続けました「明日の釈放後、この刑務所には二度と戻らないと今日約束します。二度とここで私に会うことはありません！」。

その後の4年間、私はRKM マルダ支部(西ベンガル州北部)にいたのですが、実際、彼が刑務所に戻るのを見ません

でした。そしてある日、私は彼が大きなマンゴー果樹園の守衛をしているのを見ました。彼は私の車を見て走ってくると、ポケットから1冊の本を引っ張り出しました。「見てください、私はスワミー・ヴィヴェーカーナンダの『Call to the Nation (国民への呼びかけ)』という本を買って、余暇をこの本を読んで過ごしています。この本は私を鼓舞し、私は運命の作り手は自分自身だということを学びました。働けば生活費も稼げます」

あるタミル人の少年受刑者の両親はともに収監されており、兄弟も終身刑に服していました。少年は自殺する決心をしていたのですが、ホーリー・マザーに関する本を読んで彼の落ち着いた心は、シュリー・サーラダー・デーヴィーへと傾倒していった。ホーリー・マザーの教えをすっかり読むと、彼は改心しました。2003年にホーリー・マザーの生誕150周年を迎えるにあたり、タミル・ナードゥ州にあるRKM支部は、「慈悲深いホーリー・マザー」というエッセイのコンクールを開催し、この少年も参加しました。彼が刑務所の中にいることは、審査員の同情を買う可能性があったので伝えなかったにもかかわらず、彼は1位に輝きました。タミル・ナードゥ州のラーマクリシュナ僧団長であるスワミー・ゴータマナンダジー・マハーラージから、彼は賞を受け取るために招待されました。

彼に許可は下りたのですが、彼は行く代わりにゴータマーナンダジー・マハーラージに手紙を送り、「マハーラージ、ここには我々500人の受刑者がいます。私が彼らに読みきかせをしたり、彼らがホーリー・マザーについて学べるように、どうか500冊の本をお与えください」と伝えました。

ゴータマーナンダジー・マハーラージは、最終的には宗教教師となるその少年に500冊の本を送りました。インドの各刑務所には宗教教師がいるのですが、彼はその1人となったのです。このことは2003年のホーリー・マザーのとても大きな恩寵でした。ついに彼は変容が認められ、タミル・ナードゥ州知事により刑期は短縮され、本と教えを受け取った500人全員の早期釈放も手配されました。

ここで面白い話をしましょう。ベンガル出版センター、ウドボーダンで、私のかなり先輩にあたるスワミーが、コルカタのダム・ダム・中央感化院(刑務所)に連れて行くようにと、私に何度も要請したのですが、その機会は訪れませんでした。偶然ある日、彼をそこにお連れすると、彼は訪れたさまざまな施設を見てとても喜んでいました。私は、なぜこの刑務所への訪問を切望されたのかを刑務所訪問前に彼に尋ねたことがなかったので、帰り際にその理由を尋ねました。彼は、学生時代に

毎月の鉄道定期券を更新せずに乗っていたのだ、とお答えになりました。彼は現行犯として3日間、治安判事によりその刑務所に入れられたそうです。当時、その刑務所で受刑者は水と米の食事しかもらえなかったもので、この訪問で刑務所の対応が良くなったことを確認なされたのです。

カリフォルニア州のハリウッド・センターのあるスワミーも、別の小さな刑務所を訪れた際に、同じような話をしてくれました。彼も無賃乗車で捕まったことがあるそうです。同様に2人のブラマチャーリーも小旅行の際に、列車の警笛を聞いて切符を買わずに列車に飛び乗り、捕まってしまい、治安判事は彼らを刑務所に入れました。2人は、たまたま刑務所を訪れていた奉仕団に出入りのある商人に彼らの窮状を伝えました。そこで商人はアーシュラムの秘書に知らせるために彼の二輪車で急行しました。その後、秘書はパトマ高等裁判所の裁判官となっている元学生に知らせ、裁判官は2人を直ちに釈放するための特別法廷を準備してくれました。私たちは今では非常に慎重になり、私は信者には、絶対に切符を買わずに電車に乗らないほうがいい、と伝えていますが、いたることもあり、私たちは刑務所に信者を訪問したくないからです。

時々、コルカタの男性信者たちは、私が受刑者(マルダの)のために働いていると、家長である自分も家族の囚われ者(主に夫の苦情)なのだから、どうか自分たちのために何かしてください、と私に頼みます。マルダにいた時にそのような電話がかかって来たので、私は彼らにコルカタ・センターのスワミーらに会い、家族という牢屋からどうやって解放されるかを尋ねるように助言しました。

笑い話のようですが、実のところ私たちの体も刑務所です。魂はその内側、いわば籠の中にあり、私たちはこの哀れな状態から解放されることも望んでいます。真の自由は、神を悟った後にもたらされるものなので、私たちみんなそのために励むべきです。

ありがとうございました。

2019年のカーリー・プージャー

11月6日(火)午後7時より、逗子本部別館にてカーリー・プージャーが執り行われた。インドの暦に沿って行われるこの祭りは、今年も平日に当たったため、都心から離れた逗子まで遠方から参加する方が不都合なく帰れるように、できる限り進行に遅れが出ないようプログラムが進められた。

プージャーが始まる前に、スワミ

ー・メーダサーナンダジー(マハーラージ)は、いつものように祭壇と祭壇の前にしつらえられた演壇の礼拝道具の最終的なチェックを丁寧にされた。今年のカーリー・プージャーは、主にメーダサーナンダジーの指導と補佐のもとで、新任のアシスタント・スワミーのディッヴィヤーナターナンダジーによって執り行われた。

カーリー・プージャーのマントラ、ムドラー(手印)、供物が捧げられた後、メーダサーナンダジー・マハーラージは祭壇に並べられた何段もの食べ物、果物、お菓子のお供えを見ながら参加者に、「カーリー女神がお食べになるのを静かに想像してください」と言われた。数分間、静かに想像した後、再び儀式のための詠唱が続いた。それからメーダサーナンダジー・マハーラージは立ち上がり、カーリー女神のために用意された花と供物を捧げられた。お2人のスワミーが祈りを唱えられ、数分間の沈黙の祈りへと続き、さらにマントラが唱えられた。続いてスワミー・ディッヴィヤーナターナンダジーが祭壇の前に立ち、火、水、エーテル、土、風という5つの象徴的な要素にまつわる品をゆっくりと回している間、参加者はほら貝を吹き、鐘を打ち鳴らした。最後にディッヴィヤーナターナンダジーは祭壇の前でひれ伏された。

続いてカーリー女神の賛歌「サルヴァ・マンガラ・マンガーレー (Sarva Mangala Mangalye)」をシャンティ・泉田さんのリードで、配られた歌詞を見ながら斉唱した。プシュパンジャリ (花の礼拝) では、参加者が花と葉を受け取っている間、マハーラージが参加者に聖水 (ガンガーの水) を振りかけられた。プシュパンジャリは、1 階の参加者と 2 階の参加者の 2 回に分けて行われ、まず 1 階の参加者が、マハーラージのリードでカーリー女神へ捧げるマントラを斉唱して、カーリー女神に花を捧げた。次に 2 階のグループも同じように続いた。



演壇にホーマ (護摩焚き) の用意ができると、参加者は席に戻るよう求められる、メーダサーナンダジー・マハーラージがディッヴィヤーナターナンダジーの補助を受けながら、ホーマを執り行った。マハーラージが炎に供物を捧げるときには、参加者全員がマントラを唱えた。その後、参加者は額にビブーティ (聖灰) をつけてもらい、カーリー女神にご挨拶をした。午後 9 時 30 分頃から別館と本館でプ拉萨ードの夕食が振る舞われた。今年の参加者は昨年同様約 140 名でした。





水を透き通してはるかな底にある地獄が見えた。お釈迦様はカンダタという男に目を留められた。このカンダタという男は、さまざまな悪事を働いた罪人だが、ただひとつ、善いことをした覚えがあった。というのは、ある時この男が深い森の中を通り過ぎようとすると、1匹の蜘蛛が道端を這って行くのが見えた。そこで蜘蛛を踏み殺そうとしたが、殺さずに助けてやったからだ。お釈迦様はその慈悲の行いに心を打たれ、極楽の蜘蛛の糸を遥か下にある地獄へとお垂らしになった。



地獄の池では、悪事を働いた者たちが暗闇の中で苦しんでいる。何気なくカンダタが池の空を眺めると、ひっそりとした闇の中を、遠い遠い天井から銀色の蜘蛛の糸が一すじ細く光りながら、するすると自分の方へ垂れてきた。カンダタはさっそく大泥棒のもてる力で糸をしっかりとつかんだ。



地獄から極楽へは何万里とあるので、そう簡単には上がれず、カンダタはややしばらくのぼるうちにくたびれた。ねっとりとした糸にぶら下がりながら遥か下の方を見ると、どれくらい遠くまでやってきたかが分かる。カンダタは地獄から本当に抜け出せるかとも思い、「しめた、しめた」と喜んだのもつかの間、蜘蛛の糸の下の方には、数限りない罪人たちが、自分ののぼった後をよじのぼって来ていた。罪人たちの

忘れられない物語

『蜘蛛の糸』

ある朝、お釈迦様が極楽をぶらぶらお歩きになっていた。ふと蓮池の中を見ると、蓮の花の間から水晶のような

重みで地獄から逃れる前に糸が切れることを恐れたカンダタは大きな声で、「こら、罪人ども。この蜘蛛の糸はおれのものだぞ」とわめいた。その途端、蜘蛛の糸が、ぷつりと音を立てて切れ、カンダタも罪人たちもみるみるうちに地獄の底へ、まっさかさまに落ちていった。

お釈迦様は、カンダタの他者への無慈悲な心が、己の救済をもふいにしたことをすべてご覧になった。お釈迦様が立ち上がり池を後にされる時、マハーマーヤーが明るく輝いている。

短編小説『蜘蛛の糸』1918年 要約
… 芥川龍之介

今月の思想

ことわざとは、あなたが個人的にその真理を経験するまでは、常にありきたりなものです。

…オルダス ハクスリー

発行：日本ヴェーダーンタ協会
249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1
Tel: 046-873-0428
Fax: 046-873-0592
Website: <http://www.vedanta.jp>
Email: info@vedanta.jp